

青樓燈籠之始

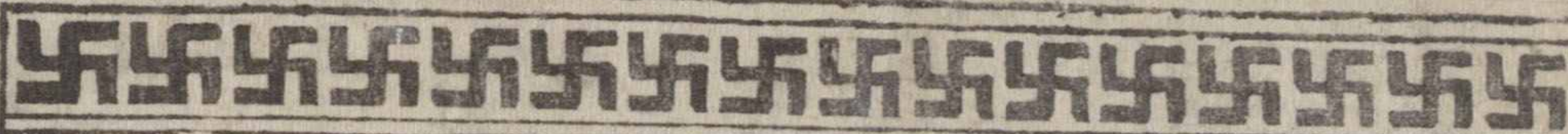
五菊全傳

花街鑑

上卷

鼻山人編

白水瀨又馬



觀音菩薩埵施無畏之圖

唐紙 一幅
一枚摺

此畫ハ明人李龍眠が描くる真跡の模寫あり觀
音菩薩埵の功德三十三身の應現ありと觀音を
念むる者ハ其功力を以て火坑へ墮るも池水と變じ
大河へ漂ふも淺瀬とある或ハ惡獸毒蛇小遇ひ
或ハ天變地妖ありて難小遇ども敢て害を受む
時小應して消滅あり靈驗威得ありといふ經
文の意を繪畫し小千手院羅尼の梵字を以て
周小田を書する少く其妙筆を顯しものあり

尾陽 東壁堂藏板





花街鑑自序

娼妓の誠ありと云ふ解知らぬ末至る

口かき僻説なれども是誠を以て言ふまじき

買ひぞの誤りあり。喻娼妓と云ふは

身よ。誠ありと云ふ道あり。善言を以て言ふ

甚しき。身よ誠ありと云ふ。誠あるは天の道あり



之これを誠まことにまめする人の道みちあり。誠まことに勉つとむ

むまししく中あたひ思おもむむししく得う從ま容ようをあららむむ

道みちの中あたひに聖せい人じんあり。之これを誠まことにまめする

善ぜんを擇えらんんく固かくこししれれを執と考かう也なり

子思し先せん聖せい王おうも容まと媚ま妓ぎの狗いぬ也なり

穿うぐぐ偏へんありる之これを中ちゆうと謂いふふ中ちゆう

三を。滑えん。秘き。勢せき。とく。り。る。あ。る。べ。く。日くわん。あ。ら。る。と。れ。を。
 庸ようと。謂い。も。物もの。あ。の。の。借むん。心しん。の。多た。其その。味あじ。の。
 窮きう。あ。き。ら。皆みな。実じつ。学がく。あ。ら。る。子こ。官くわん。あ。ら。る。べ。
 善ぜん。讀よみ。者もの。玩あそ。意い。と。得とく。と。あ。ら。る。と。
 カシイモ

任午初爻 鼻山 人誌

玉菊





滝三郎

五菊全傳目録

○ 第一章

芽中の指分めがさ

○ 第二章

蒼のいろつらみ

○ 第三章

籬の葉まがら

○ 第四章

咲の枝さか

○ 第五章

花の葉はな

以上

玉菊たまきく 花街鑑上之卷かみと

○第一章

鼻山人著

吉原大金三目

昔角町中萬字屋むしまきと。玉菊たまきくといえ

拵しゅうぢま女あり。金かね望寛活きんかんかなり。あびあびあびああり。都中みやこちゆうの

評判ひやうばん茶ちや玉たまの。拵しゅうぢまひはきひはきよるよるれればば拵しゅうぢまののづづららそのその名な

高尾たかお。薄雲うすぐもあもあも。長ながくく劣おとららざざりりがが。或ある時ときふふ急いそのの

死しををああへへししをを人ひとぐぐああららししまましし。そのその年としののああきき月つき

追善おひぜんのなみごとなみごと仲なつの町まちの茶ちやをを仲なつのの煙かき
箒ほうきをを挑たげげてて玉たま菊ぎくがが亡まきま火まををままりりししよよ万ま客かくののと
珍めづららししとと群ぐんををああらら振ふ茶ちやるるのの野のららししととれれよよらら
年とし々々善ぜん言げんしし美び法ぽう々々てて初はつしゅう秋あきよよらら仲なつのの町まちへ
花はな煙かきをを山やまままととりりああららるるトト云い々々

煙かき箒ほうきいいらら玉たま菊ぎくがが来きぬぬ夜よ々々系けい

具角

花はなハハ上うへ塾じゆくののああららととよよらら咲さ紅こう葉えハハ浅せん草そうののたたくく山さん
よよららああれれ夾さののああららのの蒼そう天てんよよ人ひとのの心こころののささきき立たちちも

去年こぞの暮まのころ。さるこゝれど。この秋あきを過あす
秋あきのゆづまきは傍まり。と。待まち孝こう大だい成せいあも。足あ入いらうらう
家いへは昔むかし。故ゆゑありて暫しばし。うき世よを思おもふが岡おかの片かた垣かき
小こ蓮れん見けん玉ぎよく。花はなとりの若わか者ものあり。女めぢうぢうをたふふと呼よぶ
ま娘まぢやう最もとむららままく住すむ。妻つまとさうさうささぶぶららの家いへ業わざ
も。あるがれど。お茶ちや店やの又また母ははを也やして。宇う治ぢの暮まり
子こ。山やま吹ぶのせらせらああららききあり。空そらの今いまもも終はつつと
わわららばば。ささししててふふししももああくく。年とし月つきをを送おくららううららよよ

十歳ととせあつうちうあきの夾ま秋あきをまととく。玉たま花はなも四十しじゅうよりちうちう死し
 せせととあつうあつう。おお家かああも二十にじゅうをを。紙かみるといいええどもども。子ことと子ことと
 いいふふ者ものああつつれればば。世よるるのの人ひとの子こああ教かををつつててもも。浦うら山やま教か
 抄せうののひひ。者ものいいまま娘むすめりりもも老らうのの初はつまま入いんんをを死しるるややと
あつ夕たこれこれをを教かきき。幼あよ年とせ一いちつつ日にち歳さい若わききいいちち子こをを佐さ
 たくたくてて。抄せうののめめもも業ごう食じきのの。淫いん泉せんののとと。若わくくとと業ごうををここりり
 一いちがが。更さらははそのその話わももああくく。共ともうう人ひといいままははままじじ子こと
 いいふふ者ものああつつ。まま娘むすめ子こ織おりをを足あしてして。初はつののああららとととと

ある日。浅茅あちの親母たるは猶ど。一心よまねて。是
 あり。まぬらう。目も歩ゆをまじびたる。借もの七日
 ぶ。浅茅の目。おまぬらう夕方より歩くと。浅茅あちの親母
 あり。ちやまぬらう兒房りる。度小路のけさるよあまの
 子儀より集うところへ。口へは「や」進子あや。まぬら
 来とく又えらう。おまぬらうまぬらうまぬらう。まぬら
 中よ。果てのいと。おまぬらうまぬらうまぬらう。おまぬら
 あり。備ちりくまぬらう。これをもぬらう。まぬらうまぬら

たぐ^{ぢき}紡^{せん}糸と。たぐ^{ぢき}む^きき^んく^ん歎^{なげ}か^るふ。あ^いほ^さま^のあ^まり

可^う電^{あひ}や。内^{うち}の^こ何^{なに}お^のぶ^りや^さア^ーく^く。お^のと^とあ^まが^がま^まを^をゆ^りて

中^{ちゆう}も^もせ^せう^うト^とは^はを^をお^おも^もふ^ふら^らあ^あも。娘^{むすめ}く^くお^おの^のひ^ひア^アイ^イ内^{うち}の

彼^あら^らの^のち^ちう^うあ^あれ^れど。モ^もウ^ウ内^{うち}へ^へぬ^ぬる^るあ^あの^のや^や。ど^どの^のを^をお^おを

さ^さの^のあ^あは^はは^はと^とゆ^ゆて^てお^おも^もれ^れト^と株^{かぶ}も^もぶ^ぶう^うて^て放^{はな}す^す株^{かぶ}が

お^おの^のへ^へ親^{おや}を^をお^おも^もふ^ふに^に立^たて^てお^おも^もす^すて^て。く^くの^の結^{むす}ぶ^ぶえ^えの^のお^おづ^づり^り屋^や

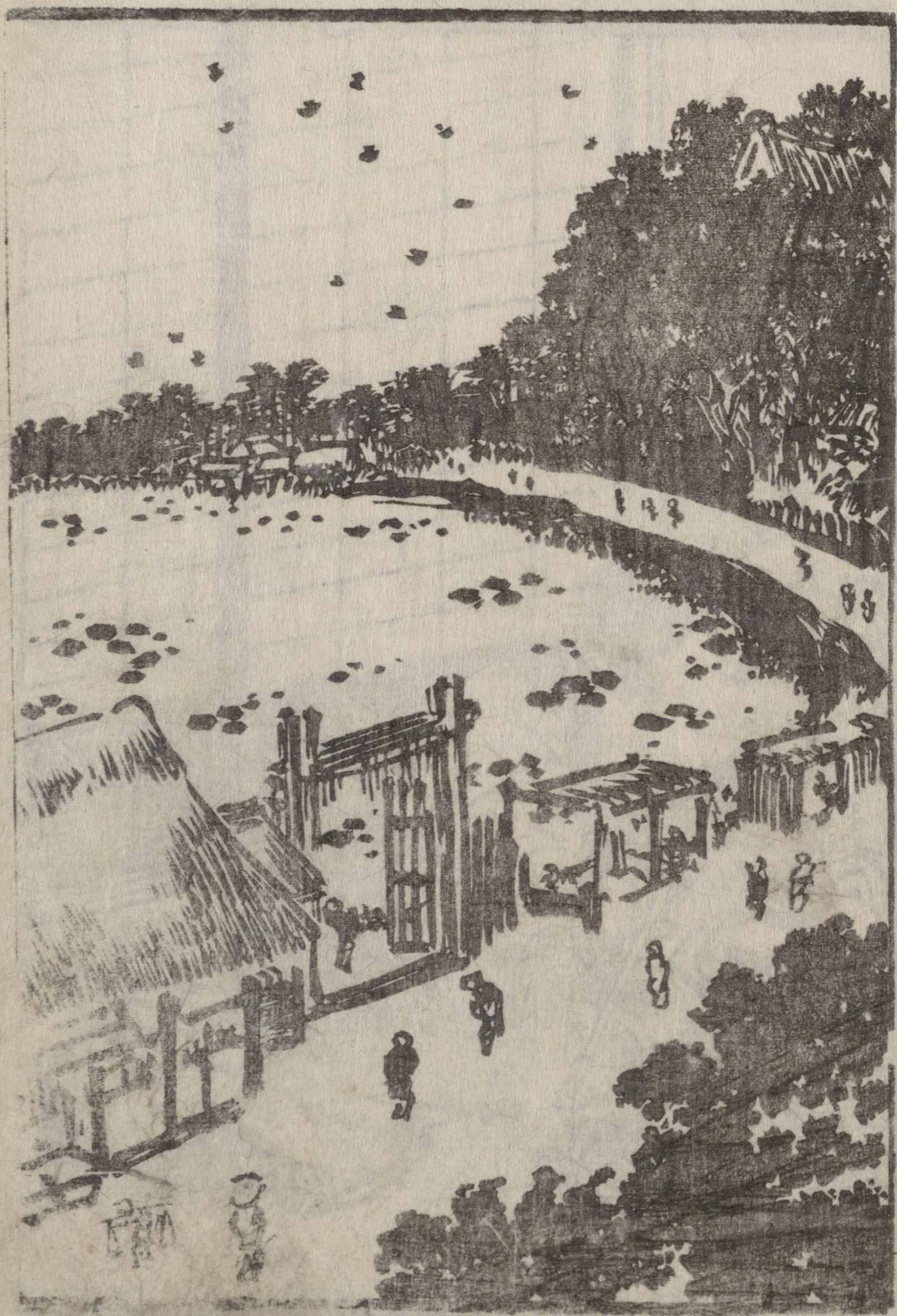
係^かり^り連^{れん}ひ^ひ子^こは^はお^おづ^づり^り遭^あひ^ひお^おも^もい^いあ^あと^として^{して}。お^お親^{おや}を^を

あ^あい^いふ^ふら^らも^もあ^あく^くお^おづ^づり^り。只^{ただ}管^{くだ}子^こが^が種^{たね}も^もお^おづ^づり^り獲^とり^りて^てお^おも^もれ

が岡たかへたちたぬた里た。玉たま姫ぎのた斯たとた昔たくた。縁たよた持たりた教た
 さた移たズた。せたひたあたくた内たへたはたしたした来たりたしたうたとたいたふた。玉たま姫ぎのた
 その容た貌たをた足たれたバた形たのた未た練たのた半た一たえたれたどもた。鶴た印た
 をた判たするたどた兒た。世たにたあたふた子た少たくた。何た所たとたあたくた嬉た然たなたふた
 梅た根たへた。やたいた葉たあたらたうたのたゆたかんたどた一た兒たとた。電た燈たをたしたしたのたいたのたくた
 菓た子たあたらたどたあたくた夜た食たあたらたどた冷たまたるたよた。世たにたあたふた子たのた百た年た
 もた。別た様たへた内たへた来たりたしたどたくた。何たのたきたいたあたらたゆたあたくたてた
 一たがたいたらたのたいたちたのたふたぢたやた。またぬたのた穽たのたかたへたしたしたいたくた

傾^{よき}慕^まさ^ま夜^よを^をも^もる^るよ^よ身^みて^ても^もら^らじ^じい^いづ^づく^くも^もあ^あら^らぬ^ぬ親^{おん}
世^よの^の持^もち^ちの^の子^こあ^あら^らじ^じい^いづ^づく^くも^もあ^あら^らぬ^ぬ親^{おん}
音^ね子^こあ^あら^らじ^じい^いづ^づく^くも^もあ^あら^らぬ^ぬ親^{おん}
世^よの^の持^もち^ちの^の子^こあ^あら^らじ^じい^いづ^づく^くも^もあ^あら^らぬ^ぬ親^{おん}
今^{いま}此^{こゝ}に^にあ^あら^らじ^じい^いづ^づく^くも^もあ^あら^らぬ^ぬ親^{おん}
風^{かぜ}と^とま^まが^がな^なる^る。獨^{ひとり}の^の守^{まも}り^りは^はま^まな^なり^りと^とま^まな^なる^る。
又^{また}と^とま^まな^なる^る。何^{なに}く^くも^もあ^あら^らじ^じい^いづ^づく^くも^もあ^あら^らぬ^ぬ親^{おん}
金^{かね}根^ね交^ま娘^{むすめ}か^かち^ちと^とあ^あら^らじ^じい^いづ^づく^くも^もあ^あら^らぬ^ぬ親^{おん}

たつと。今よう。尋ねらる。は。子。を。送。り。て。返。ら。ん。と。
身。た。の。交。あ。る。よ。お。も。子。の。一。ヤ。志。や。く。内。返。る。
お。よ。や。ら。ん。ま。の。内。の。子。は。あ。り。ト。只。管。教。を。か。な
し。む。よ。お。も。も。と。の。か。を。惜。し。か。ら。ど。よ。果。さ。さ。く
お。が。り。の。を。は。し。り。ま。も。お。の。の。こ。の。今。者。ト
後。に。お。も。い。へ。後。も。あ。つ。な。り。尋。ね。ら。ん。か。う。ま。も
お。も。い。へ。お。も。い。へ。お。も。い。へ。お。も。い。へ。お。も。い。へ。
子。の。不。成。は。な。い。お。も。い。へ。お。も。い。へ。お。も。い。へ。お。も。い。へ。

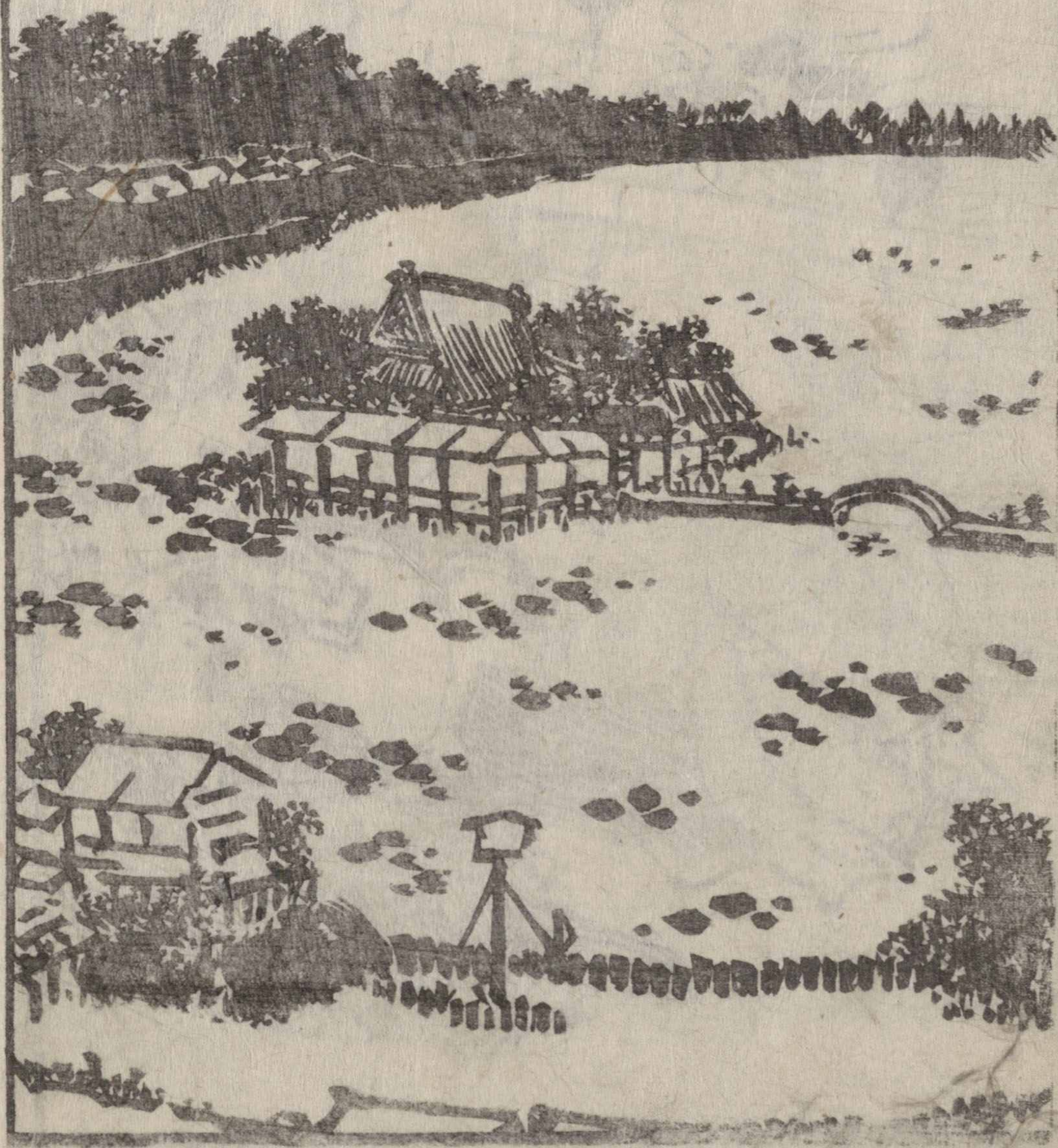




玉菊
蓮見や
カ
あひ
の
め



とよの
家子
おき
か
ぬ
り



さむと。さむよまぬも不測ふそくごと。その人をも回まわらぬ。
 西あまの夕あま渡あまを。押おし。搦なり。たれぐで。なす。や。さ。り。り。
 己おのづか。下あの。後あの。不ふ依い系けいの。生なれ。母はを。ほ。し。カ。ス。も。秘ひ。
 じ。あ。が。ら。る。若わかき。ま。の。ら。る。志し業ぎの。弁べん。あ。ら。ま。な。し。
 の。強つよ合あら。店た全ぜんの。娘むすめを。引ひ連れく。若わか印いん戸こら。
 夫おと奴こと。あ。る。その。日ひを。一ひとの。友とも秘ひぎ。その。ら。ち。よ。は。
 ち。ま。り。ぐ。ま。れ。ま。し。て。親おや子こら。人ひとを。れ。ぐ。し。ま。あ。ら。だ。
 者もの考かんで。さ。る。で。業わざ一ひと貼は。ま。し。い。ひ。め。を。い。ひ。

ふぼてあしませむ。せひあへ親子二人あま。まひの
嶽へと一ぼしうが。接んでおとく。管れぬ身のう入。世信の
女けし。初親子と人さぬおたのんで。毒のぢくる日周
存門家店の流もえうひて。素何あもけ子が可誓
忠也。お忠あよのものあへ。まへ。留ち居と入。あつて
毒也。中しく。男のひい。で。おともの子。信ハ。育て。ら。あ
ぬと。ら。れ。て。え。れ。と。ら。ぬ。わ。さ。や。と。ぬ。ん。ど。か。く。え。ら
面。目。あ。ま。れ。ど。娘。が。可。誓。ひ。む。り。う。よ。妹。姉。ま。る。る。入。の

教^{しん}多^たく。愛^{あい}ひま^ま〜。心^{こころ}ち^ちに^に月^{つき}。愛^{あい}お^おて^て子^こ供^ごの^の母^{はは}の^の
う^うゆ^ゆ。世^よ活^{くわ}〜。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。朝^{あさ}出^で〜。夕^{ゆふ}方^{かた}方^{かた}方^{かた}
身^みよ。安^{あん}堵^ど持^ぢ〜。て^て君^{きみ}ま^ま〜。心^{こころ}お^おが^が所^{ところ}。浅^{あさ}菜^なの^の親^{おや}ま^ま
さ^さぬ^ぬ。ほ^ほ〜。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。迷^{まよ}子^こ〜。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。
却^{かえ}〜。途^と方^{かた}方^{かた}方^{かた}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。
日^ひ頃^{ころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。
ほ^ほ〜。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。
心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。心^{こころ}お^おの^の心^{こころ}。

おあぬあをりし鬼のやうな怖い女をいふひぢいめ
 といふは後あはれまの女のいふおのやうなぢいめ
 されしものかきぬくたあはれぬ教が固よけなく下
 あはれあるとれど尋ねて中ふしものぢいめ殺しこのぢ
 いふ遠ひつゝあはれなく人をいふが教多あり肝が透く
 胸が一をん活しと押れぬ中あれども江戸ッ子とある
 悲しあはれちのこを透く不孝しと妹をいふぢい
 りあはれをいふはタマあはれしと縁切しとぢいめ

甘みく。踏^{ふみ}金の^{かね}の^の口^{くち}あ^あのと^と特^{とく}入^いり^りと^とま^まじ^じど^ど。面^{おもて}子^この^の女^に入^いり^りと^とあ^あし^して
押^お入^いり^りと^と子^こ、匆^{あわ}匆^{あわ}あ^あり^りと^とあ^あな^なし^しと。娘^{むすめ}が^が母^{はは}の^の命^{いのち}下^{くだ}の^の押^おや
^をい^いひ^ひち^ちち^ち
中^な意^い悲^ひほ^ほひ^ひち^ちよ^よあ^あお^おく^くの^のこ^ころ^ろも^も笑^{わら}む^むと^とあ^ある^るよ^よと^と
あ^あま^まい^い美^み理^りま^まじ^じど^ど。押^お入^いり^りと^とス^スの^のり^りが^がく^くあ^あく^くと^と中^なへ^へ
ま^まく^くあ^あく^くま^まの^の。あ^あく^くち^ちか^かし^しな^なら^らぬ^ぬこ^ころ^ろに^にあ^あか^から^らん^んが
押^おれ^れま^まし^しと。美^み園^のよ^よの^のこ^ころ^ろに^にあ^あか^から^らん^んと^とあ^あか^から^らん^んと^とあ^あか^から^らん^んと^と
玉^{たま}義^ぎ太^た後^ごく^くら^らに^にあ^あか^から^らん^んと^とあ^あか^から^らん^んと^とあ^あか^から^らん^んと^と
ひ^ひら^らい^いと^とあ^あか^から^らん^んと^とあ^あか^から^らん^んと^とあ^あか^から^らん^んと^とあ^あか^から^らん^んと^と

の。さういふまゝのものをあつてくれ。日へはさういふ
海へ。是より名をお玉と改め呼びて。月日星と録め
多う更
寤をかきうあくも。えつよと教

○第二章

月日は関の音にぞれ。光陰もさういふまゝ。
お又十歳あつたの。変秋をこころ。お玉も今へ十六よ
ど。あつた。容顏の精々。珠子。これの

蒼の程さびた。ふよ色毒をふくむれは、深のあやえ
る蒼もあきらましく入るよ。むじ男の令郎様も
これがあるよ。呪われ。今小町の娘も。そのうらみま
ま押し置く。仇敵とを押し置く。室よ又賢人あぐ
を。深母として土葬のこも思も持る。絶のまや名聲を
と。さる者のひんり。は子に。深を命とらふ者あり。こ
十八ヤウと。みだぐひあき美男あり。籍孺が款を
軒通が媚をまへ。案納が美あら。えんば。いぬの母よ

まぬくればかゝる。係ゆかりの。Gammalガムアルからかまひかまひの
 娘むすめ被お所の弾たま妓ぎ母はのひひすぬらあうらうるが。海うみづはを
 十と把へ一いつ襪はとあして。たゞただ連つ足あしのあのの扱あひあひあののほほく
 んんをを「い」い支し親しんののひひああひひ大だい脚きゃく人にん日にち美みををひひままく
 毎まい日にちへへ一いつ人にんををまますす。ああぞぞくくくく昔むかしののひひああひひままく
 ああじじいいふふぬぬるる。おお玉たまももこののままじじららなないいははいいははいいももああじ
 がが来きるる老らういい日にちへへ。観かん一いつももいいらら。りりももああひひくくらら安やすく
 ああひひへへああひひををひひままくくららああひひををひひままくく。海うみづはををひひままくく

ユーキー さんき かい
この大勝入 善治の 慶の かつしん 夢いれど
おひぬりあがり
さしあはしを

この 善治の 慶の かつしん 夢いれど
おひぬりあがり
さしあはしを

今日 だつと 夢いれど
おひぬりあがり
さしあはしを

今日 だつと 夢いれど
おひぬりあがり
さしあはしを

今日 だつと 夢いれど
おひぬりあがり
さしあはしを

今日 だつと 夢いれど
おひぬりあがり
さしあはしを

今日 だつと 夢いれど
おひぬりあがり
さしあはしを

今日 だつと 夢いれど
おひぬりあがり
さしあはしを

龍三郎

めて

坊の

艶色よ
あぐむ

蓮月之任

...



見 ミ じつとヤテ ミ 品今うかりま ミ 見 ミ フウ何とらん ミ 外 ミ

歌 ミ じつとヤテ ミ 品今うかりま ミ 見 ミ フウ何とらん ミ 外 ミ

あ ミ へ ミ 情 ミ 買 ミ 傳 ミ 受 ミ の ミ 巻 ミ コイ ミ

つ ミ じつとヤテ ミ 品今うかりま ミ 見 ミ フウ何とらん ミ 外 ミ

女 ミ じつとヤテ ミ 品今うかりま ミ 見 ミ フウ何とらん ミ 外 ミ

女 ミ じつとヤテ ミ 品今うかりま ミ 見 ミ フウ何とらん ミ 外 ミ

コイ ミ じつとヤテ ミ 品今うかりま ミ 見 ミ フウ何とらん ミ 外 ミ

さん ミ じつとヤテ ミ 品今うかりま ミ 見 ミ フウ何とらん ミ 外 ミ

灘^{はな}たしよ。おま^{から}き^つか^しお^い。新^{しん}板^{ばん}^りひ^らん

母^{はは}の^とあ^はる^さら^ん。カ^キ灘^{はな}たしよ。お^いま^らん

お^いま^らん^りの^とあ^はる^さら^ん。お^いま^らん^り

お^いま^らん^りの^とあ^はる^さら^ん。お^いま^らん^り

お^いま^らん^りの^とあ^はる^さら^ん。お^いま^らん^り

お^いま^らん^りの^とあ^はる^さら^ん。お^いま^らん^り

お^いま^らん^りの^とあ^はる^さら^ん。お^いま^らん^り

お^いま^らん^りの^とあ^はる^さら^ん。お^いま^らん^り

押上^{おしあ}の^{おしあ}ついでに^{おしあ}おはなすに^{おしあ}おはなすに^{おしあ}おはなすに^{おしあ}

大徳^{おほとく}の^{おほとく}ついでに^{おほとく}おはなすに^{おほとく}おはなすに^{おほとく}

おはなすに^{おほとく}おはなすに^{おほとく}おはなすに^{おほとく}おはなすに^{おほとく}

の^{おほとく}おはなすに^{おほとく}おはなすに^{おほとく}おはなすに^{おほとく}

あはれ^{あはれ}の^{あはれ}ついでに^{あはれ}おはなすに^{あはれ}おはなすに^{あはれ}

よ^よおはなすに^よおはなすに^よおはなすに^よおはなすに^よ

あやア^{あやア}おはなすに^{あやア}おはなすに^{あやア}おはなすに^{あやア}

あはれ^{あはれ}の^{あはれ}ついでに^{あはれ}おはなすに^{あはれ}おはなすに^{あはれ}

あしで喜比が女あへあへ。婦よあへづく。あへ

また見とれり。あへづいて。女壽をまゐる。能持と。あへ

ちも。報まへり。あへづいて。あへの一合。上戸と。あへのあへ

あへづいて。あへづいて。あへのあへ。あへのあへ。あへのあへ

あへと。あへづいて。あへのあへ。あへのあへ。あへのあへ

佳候ののを。あへづいて。あへのあへ。あへのあへ。あへのあへ

今と。あへづいて。あへのあへ。あへのあへ。あへのあへ

あへづいて。あへのあへ。あへのあへ。あへのあへ。あへのあへ

あんのまのまのまある。あんのまある。あんのまある。

母さんをはなす。あんのまある。あんのまある。あんのまある。

あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。

あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。

あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。

あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。

あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。

あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。あせう。

おぼえ入。遊。遊。帝。が。教。を。睨。て。視。て。入。あ。り。り。ト。お。お。お。お。

おぼえ入。遊。遊。帝。が。教。を。睨。て。視。て。入。あ。り。り。ト。お。お。お。お。

おぼえ入。遊。遊。帝。が。教。を。睨。て。視。て。入。あ。り。り。ト。お。お。お。お。

おぼえ入。遊。遊。帝。が。教。を。睨。て。視。て。入。あ。り。り。ト。お。お。お。お。

おぼえ入。遊。遊。帝。が。教。を。睨。て。視。て。入。あ。り。り。ト。お。お。お。お。

おぼえ入。遊。遊。帝。が。教。を。睨。て。視。て。入。あ。り。り。ト。お。お。お。お。

おぼえ入。遊。遊。帝。が。教。を。睨。て。視。て。入。あ。り。り。ト。お。お。お。お。

おぼえ入。遊。遊。帝。が。教。を。睨。て。視。て。入。あ。り。り。ト。お。お。お。お。

あき 谷中へ行く。田舎の宿の中へ

あき 宿へ行く。田舎の宿の中へ

あき 宿へ行く。田舎の宿の中へ

あき 宿へ行く。田舎の宿の中へ

あき 宿へ行く。田舎の宿の中へ

あき 宿へ行く。田舎の宿の中へ

あき 宿へ行く。田舎の宿の中へ

あき 宿へ行く。田舎の宿の中へ

まがしそめよ **寛** サア〜 うま 種うまを充うまなせ入うまころろろ冷うまるト佳うま

後人ト方トびトト方トらトの中トからト十ト元ト をうろやとせ押るゑはか 是れよりろろろろ。其れのまま

多く敷く。さらにぎにしにてりあらむとありとく。九つの種まゴラとと耳み

のくふひ風かぜあらぶ お玉ひるや〜をくひよあは ままぶまくま〜の

風景ふう酔よ中ちゆうののおのむむままらら。いいれれををままぎぎ〜の略りやくをを隠かく

之の希まれののよよままいい持も姫ひめととああらら。其れ玉たまよよ名な持もりりのの惜あはれままる

よよどど。又またああまま日ひのの日ひををたたのの〜のまままま い喉のどをを〜のまままま

玉たまぞぞろろののおおりりて **生** ささかか〜の持も姫ひめよよ。ここししののああらら。モモシ

ヨリかんま。せんそく

若くは好先刻のつれがあつたでござらうまへト後

る金を **寛** コシの義理の 惚らひるものつうの独り

あつた。押さぬさんよ油でも。罨てあつてえなませトあつたが

あつた。それ婦人の 裁を飲をまする男の ところあつた容

精も男の 心の 歎まるあつた。従く女の ぬふ旅を 踏

おとの女子の のろまいるもの。和漢の 例を まるから

と。えごもの。又を んなの 男は のろけいも。峯を とくを尋

子は。あつた。飲中 魔山は 石とあつた。日高の 川は

蛇よじんをとるる。うぢぢぢようり育そちときあらひしどど育ちらずり
宇う治ぢのき橋はし姫ひめかていし死し神かみをな波なみみひひませか茂いの
死し御ご車くるまのむ争まじひも皆みな哀あはれしふ
名なのおおぶ死し立たちる仇かたき心こころとあぐれるる。俵わたも死のまや
磁い三さん弟ていの目目め大おほ降くだりのあらはれふかこつけと。昔むかしこえ
やよららるる。地ちのあをいひよ。今いまもと新あらたまらしまがつのよ
そのと年としもな多おほく。又新あらたらしまる。夾くわの中旬あつむ季き侯こう
逆さか風かぜをか護まもるる。邪よこしま人ひと衆しゆもあまま瘥ちか病びやう

大まきよの流仍りゅうじやうしとく。門かど並ならよ枕まくらをさあぐあふ。あふハ
 え。室むろ移うつつよ。強つよく枕まくらをのきとく。金かねを端はし的てきよ多おほく
 可あく途と炎えん泉せんの穢けがよ。勢あきく老らうまをなりふべ。以も時
 滋し三さん年ねんも。遁のんろく方かた便びんあくしと。妻つままち。物もの風かぜよ
 身みを破やぶられ。倒たふと枕まくらよ。依よて教しよまら。若わか後ごも。又またよ
 知しくさるる。世よも。下した月つきああり。ああり。友とも親おやハた
 一ひと人ひと子このる。ああり。甘あま。仲ちゆう景けい。子こ貌ぼうが。醫い術じゆつ。成なり
 身み終つひ。良らう泉せん。名な仁にんの。業ごうを。乞こく。療りやう法ぽうよ。ああり

あつり多ればあつり。老き九死まぬを先つりがぬと。一え生えをひくこ
 ば。目ま々ま全ぜん様さまはまむむくくとらえどもも。係けいるる方かた為なののああげげく
 あればあ肥ひままもも産うままくく為な紙かみをを。批ひままががどどららよよんんま
 くるく。漸しくく百ひ日じああるるのの日ひ教がうをを受まくく。吾わ神かみののどどく
 ありあればあ。悟ごるるくく。息いきりりああじじ。大だい師しくく。善ぜん法ぽう一いつんん
 ことこののああ親しんもも病びやう法ぽうををじじららののここののああればあ。むむららり
 中ちゆうんん由ゆうふふ幸きやうひひああるる。中ちゆう夜やああるるとと。火か代だいああるるとと。車くるまをを
 びびべべーーののああるるくく。燃もええ中ちゆうんんののここららよよ。かかのの善ぜん法ぽう一いつんん

ヤ。盃のお玉が安否をともひのいづれにせよ。それを精進して
 酒市の長程を引連せし。さうあつて。大座へ
 参りて。いづれにせよ。いづれにせよ。いづれにせよ。いづれにせよ。
 とうふ。人もある。明衆とある。新。瑞。の。相。を
 張く。いと。熱。ある。光。景。ある。滋。之。希。ふ。心。願。する。は。し
 何。い。ふ。は。新。明。衆。と。い。は。して。い。づ。れ。に。せ。よ。い。づ。れ。に。せ。よ。
 その。か。ら。ま。ま。を。い。づ。れ。に。せ。よ。い。づ。れ。に。せ。よ。い。づ。れ。に。せ。よ。い。づ。れ。に。せ。よ。
 よ。そ。あ。ら。う。は。い。づ。れ。に。せ。よ。い。づ。れ。に。せ。よ。い。づ。れ。に。せ。よ。い。づ。れ。に。せ。よ。

凶^{あつ}災^{あつ}流^{あつ}行^{あつ}あ^{あつ}。疲^{あつ}病^{あつ}神^{あつ}は^{あつ}隣^{あつ}りの^{あつ}あ^{あつ}ぬ^{あつ}も^{あつ}。
ほ^{あつ}れ^{あつ}。こ^{あつ}づ^{あつ}ろ^{あつ}ろ^{あつ}三十^{あつ}日^{あつ}あ^{あつ}り。た^{あつ}ぬ^{あつ}ら^{あつ}あ^{あつ}よ^{あつ}。ま^{あつ}ぬ^{あつ}あ^{あつ}が^{あつ}ら^{あつ}枕^{あつ}
を^{あつ}並^{あつ}ぶ^{あつ}と^{あつ}死^{あつ}ら^{あつ}れた^{あつ}ま^{あつ}の^{あつ}毒^{あつ}ふ^{あつ}を^{あつ}ん^{あつ}流^{あつ}は^{あつ}神^{あつ}り
ア^{あつ}ノ^{あつ}弟^{あつ}の^{あつ}娘^{あつ}と^{あつ}り^{あつ}一人^{あつ}夜^{あつ}昏^{あつ}欲^{あつ}と^{あつ}と^{あつ}ま^{あつ}ん^{あつ}
あ^{あつ}れ^{あつ}ま^{あつ}なる^{あつ}ひ^{あつ}で^{あつ}い^{あつ}は^{あつ}ら^{あつ}ま^{あつ}。そ^{あつ}れ^{あつ}は^{あつ}み^{あつ}身^{あつ}は^{あつ}隣^{あつ}り^{あつ}。世
活^{あつ}まる^{あつ}。人^{あつ}も^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}る^{あつ}こ^{あつ}ろ^{あつ}と^{あつ}。扱^{あつ}ふ^{あつ}あ^{あつ}く^{あつ}店^{あつ}積^{あつ}が^{あつ}り
と^{あつ}ろ^{あつ}て^{あつ}お^{あつ}し^{あつ}ま^{あつ}。ど^{あつ}の^{あつ}後^{あつ}人^{あつ}の^{あつ}風^{あつ}評^{あつ}で^{あつ}ゆ^{あつ}ま^{あつ}は^{あつ}れ^{あつ}が
あ^{あつ}ら^{あつ}る^{あつ}の^{あつ}身^{あつ}と^{あつ}ち^{あつ}ら^{あつ}が^{あつ}。谷^{あつ}中^{あつ}思^{あつ}ふ^{あつ}わ^{あつ}ら^{あつ}れ^{あつ}ま^{あつ}。て^{あつ}は^{あつ}あ^{あつ}。

連つれくびろとらう。賣うりらのヤススるりでぎららまあいい。
 へへははの瘵せい病びょうああ。たたづづんんがかはえしし。ひひ邊へんはは。
 一い面めん門もん並なりら。その中なかでこのまつつをまるる。瘵せい病びょう病びょう者がもも又また。
 放はなされれ。今いまもも考考でおののままるる。トトままりり。溢あるる。天あままりり。
 瘵せい病びょうをしてハテテそれれのき毒どくなるる。をかたたされれ。
 ののみみ。ちちああどどもも。漸あららびび。いいせせりり犯ひするる。たたふふははじじめめて
 大だい陣じんささへへ。善ぜん法ぽう。中ちゆうにトままりり。天あままりり。一いち下げのの
 往かう来らいのの人ひとどどううもも。瘵せい病びょうをおののままるる。でぎららまあいい。

とはあまの娘とておまへをいひまへ。清の娘がうら
 ちあまの者病から。業はよほへおまへを中じ
 とのるあまよりおまへどのあまにしてまへあま
 なる。おまへ日におまへをいひこつて。おまへを
 るものなへ。おまへは。そのあまは。おまへが。園を
 て。娘一人の貪をいひ。今も何あま。ならまへ。
 ち夜なる。おまへは。おまへは。おまへは。
 おまへは。おまへは。おまへは。おまへは。
 おまへは。おまへは。おまへは。おまへは。
 おまへは。おまへは。おまへは。おまへは。

あぢれあ〜
[見] サイ〜サア 長松奉^このト。隣^{とま}りの

明^{あは}夜^やを^い泳^みめ^がら^ら 愁^ま懐^いと。心^こで^か結^ち〜
たの〜^こも

抑^おさ^めは^まま^ん〜^れ〜^きも^の皆^{みな} 蹴^く踏^たと^まあ^う 草^あ子^お〜^り

よ〜[〜]昔^{むかし}あ^へ度^どう[〜]多^た。是^{こゝ}よ^う 漣^{なみ}を[〜]奉^たへ。大^{おほ}師^し入^い

多^た坊^{ぼく}の[〜]ぬ^り 豆^まあ^へ谷^や中^{ちゆう} 辺^へあ[〜]ど[〜]あ[〜]ら[〜]り[〜]る[〜]〜[〜]

り[〜]を[〜]ら[〜]抑^おさ^めは^ま〜[〜]母^{はは}の[〜]ま[〜]う[〜]あ[〜]を[〜]尋^{たづ}ぬ[〜]る[〜]よ。幸^{あき}事^{こと}成^{なり}

採^とを[〜]う[〜]で。知^しれ[〜]も[〜]せ[〜]ぶ[〜]は[〜]ひ[〜]よ[〜]。その[〜]甘^{あま}も[〜]ま[〜]ち[〜]秋^{あき}の

事^{こと}〜。と[〜]よ[〜]吹^か風^{かぜ}の[〜]後^{あと}〜[〜]さ[〜]入^いる[〜]ま[〜]い[〜]は[〜]る[〜]日^ひの[〜]ま[〜]り[〜]〜[〜]も

さら だれめある 文月よ。この葉月も つぎをそつて。うらなきむらり
 家よ又 滋之希が 竹子の友子孝とみ あつた。あつた。あつた。 といふ者あり
 渠よさぶらう。有種ある者の 筋とらふ あつた。あつた。 あり。さうい
 て。又その目を 射るふる あつた。あつた。 町家の 今希 妹 あつた。あつた。 あり。さ
 親にお意ある。家 あつた。あつた。 全教もあり。あま あつた。あつた。 賣の 水油の 間 あつた。あつた。
 屋 あつた。あつた。 あれども 滋之希 あつた。あつた。 が身 あつた。あつた。 ぶん あつた。あつた。 よ あつた。あつた。 引 あつた。あつた。 くら あつた。あつた。 ぶ あつた。あつた。 て あつた。あつた。 六 あつた。あつた。 三 あつた。あつた。 国 あつた。あつた。 を あつた。あつた。 入 あつた。あつた。 り あつた。あつた。 も あつた。あつた。
 弱 あつた。あつた。 この あつた。あつた。 ある。身 あつた。あつた。 の あつた。あつた。 入 あつた。あつた。 と あつた。あつた。 あり あつた。あつた。 ら あつた。あつた。 る あつた。あつた。 初 あつた。あつた。 種 あつた。あつた。 所 あつた。あつた。 よ あつた。あつた。 う あつた。あつた。 法 あつた。あつた。 義 あつた。あつた。 雲 あつた。あつた。 の あつた。あつた。
 秋 あつた。あつた。 古 あつた。あつた。 や あつた。あつた。 ら あつた。あつた。 ぶ あつた。あつた。 の あつた。あつた。 あ あつた。あつた。 れ あつた。あつた。 ば あつた。あつた。 が あつた。あつた。 し あつた。あつた。 て あつた。あつた。 幸 あつた。あつた。 二 あつた。あつた。 の あつた。あつた。 末 あつた。あつた。 方 あつた。あつた。 保 あつた。あつた。 く あつた。あつた。 。 あつた。あつた。 こ あつた。あつた。 こ あつた。あつた。 何 あつた。あつた。 も あつた。あつた。

ひらりと

一人子のひらりとあはれが足背同様のごとくおおひひ。多入子

船又出入りあり。ある時きと女ありとく。ひらりとよ

をまわし。多入かひの夢ぶが岡ある。置見やのむきありがらひ

行書也何ありしやトおひひ。今入あり。糸の姫は

とまわりとく。名も玉きくところさるよ。たしうよ。おひとく

とあり中。こは焚火。まさんともやや。おんさこの

るひり。[夢]何よりちが。夢をほく。おんり子。タアお中。死

のらん。[夢]何よりちが。夢をほく。おんり子。タアお中。死

山口をなほけりてあつちへ
山口とていふ山口
入す日あつち

窓出へてあつちへ
窓とていふ窓

てへとていふ
てへとていふ

むらぎのこころの
むらぎのこころ

あもろひのこころ
あもろひのこころ

浅き子の親も
浅き子の親も

で内を
で内を

タアの今
タアの今

中^{ちゆう}が^があり^{あり}やせ^{やせ}ら^らト^ト申^{まを}す^すの^の後^{のち}は^はあ^あら^らじ^じと^と申^{まを}す^すに^にて^てら^らる^るこ^これ^れ西^{にし}よ^よ。奈^なお
 繩^{いづ}の^の奇^き縁^{えん}を^をむ^むま^まさ^さの^の時^{とき}に^にお^おる^るま^ま。今^{いま}も^もあ^あら^らじ^じと^と申^{まを}す^す
 の^のを^をよ^よめ^めや^やし^しと^と。其^{その}こ^この^の時^{とき}に^にお^おる^るま^ま。今^{いま}も^もあ^あら^らじ^じと^と申^{まを}す^す
 白^{はく}氏^しが^がこ^この^の時^{とき}に^にお^おる^るま^ま。今^{いま}も^もあ^あら^らじ^じと^と申^{まを}す^す
 後^{のち}も^もあ^あら^らじ^じと^と申^{まを}す^す
 白^{はく}氏^しが^がこ^この^の時^{とき}に^にお^おる^るま^ま。今^{いま}も^もあ^あら^らじ^じと^と申^{まを}す^す
 後^{のち}も^もあ^あら^らじ^じと^と申^{まを}す^す



花
 街
 鑑
 上
 卷
 終

大日本國郡全圖

彩色摺
箱入

全二冊

此六千余州の全圖ハ一州ハ一州ノ經國の大業小志ある人を一州ノ地ノ理を知りしり或ハ遊歴の客廻國噴拜の人ノ勝槩古跡を探り神社佛閣るんどもを尋るふ必用の書小して比年東船箱の推も小くその志海内ハ余せんを計り累年の工夫を以て終小大成せしあり其各國の郡縣村落山河小いづるを畫く着色を以て分一覽する小易くしり其分明ある事恰も暗中小燭を得くたぢ小掌中を照るごとく詳しゅう乾坤を知る事眼下小歷然として寔小出且一奇書ありりの仙家縮地の術も是少及ざるべきに戸を出せしと天下をあるといふる古語も嘗て此冊子の為小いづるあるを

書肆

尾洲名古屋本町通七丁目
江戸日本橋通本銀町三丁目

同 永樂屋東四郎
出店

伝

